かいぼりを軸とした
自然再生の取組をつたえる

未来へつなごう、湧水の池

KAIBORI News

No. 24
2020年3月

登録番号 (1)19
R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

●発行
東京都西部公園緑地事務所
http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jimusho/seibuk/index.html
●編集
認定 NPO 法人 生態工房
http://www.eco-works.gr.jp/

ヒナに給餌するカイツブリの親。ツツイトモの茂みには食物が豊富にある。

2019 水鳥 繁殖結果

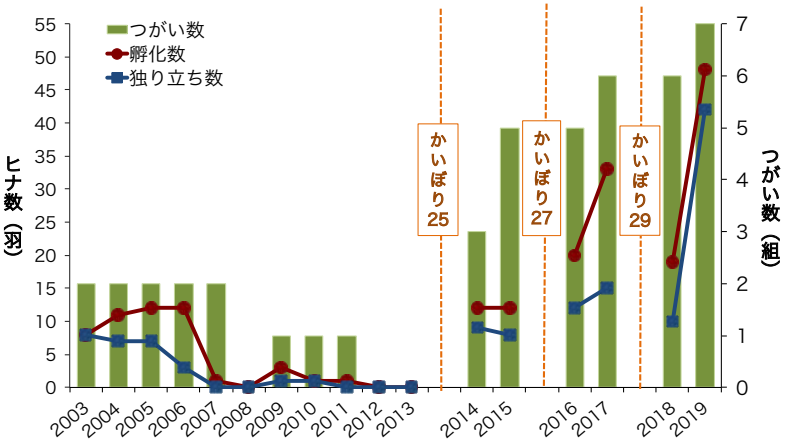
オオクチバスなどの外来魚を駆除した井の頭池では、在来種の小魚やエビ類が回復し、それらを食物とするカイツブリが再び繁殖するようになった。2019年は、カイツブリのヒナ数がこれまでで最多となったほか、アオサギが初めて営巣するといったうれしいニュースが続いた。

カイツブリが大幅増加！

2019年の繁殖シーズンは、7つがいのカイツブリが確認され、このうち6つがいが営巣した。年間のヒナの孵化数は48羽、独り立ち数は42羽で、これまでで最多だった。

要因としては、繁殖回数が16回と多かったことが挙げられる（2018年は9回）。例年の繁殖期間は3・4月から7月頃だが、今期は2月に営巣を開始したつがいや、11月まで産卵したつがいがいた。また、ヒナが独り立ちする前に次の営巣を開始する親鳥もいた。こうした結果、繁殖回数が増加した。

繁殖回数が増えた背景には、カイツブリの食物事情の好転と、営巣環境の充実があると考えられる。ヒナへの給餌内容を前年と比較すると、今期はエビやヤゴの給餌回数が1.5倍に増加していた。



カイツブリの繁殖数の経年変化
※2003-2015 年は田中利秋氏のデータから作図

孵化から１ヶ月後に生存していた個体を独り立ちとみなした。

水草のツツイトモの生育範囲が池全体へ拡大し、エビなどのすみかとなる茂みが増えて獲物を捕りやすくなった。またハゼ科のウキゴリが増加し、表層に稚魚の群れが多くいたので容易に捕食することができたと考えられる。

ふんだんにあるツツイトモは、カイツブリの巣材としても利用された。7月にはツツイトモの茂みの上に営巣するつがいも現れた。カイツブリの繁殖は、食物やすみかとなる池の環境に大きく左右されることがよくわかる。

アオサギが初営巣！

2019年2月、アオサギが池畔の高木で初営巣し、来園者が興味深く見上げる姿が見られた。この巣は数週間で放棄されたが、アオサギはすぐに井の頭自然文化園水生物園の木に巣を構え直し、2羽のヒナを育てた。ヒナは大きくなって6月には巣の外で過ごすようになった。巣立ちした幼鳥は秋頃まで池畔などでたたずむ様子が観察された。

そのほかの水鳥では、カルガモが2回繁殖した。ヒナを連れて池の各所の浅場で休息したり食べものを探す様子が観察された。（裏面へ）

巣の上のアオサギのヒナ

浅場で休息中のカルガモのヒナ

今年も繁殖スタート

2020年も繁殖シーズンが始まっている。3月末現在、カイツブリは5つがいが滞在。鳴き交わしたり、巣を造る場所を品定めしている段階だ。アオサギは今年も1つがいが抱卵している。さらに、カワウが池畔の高木で初営巣。ヤギのような聞き慣れない鳴き声に、樹上を見上げる来園者も多い。

巣の上のカワウ

Topics

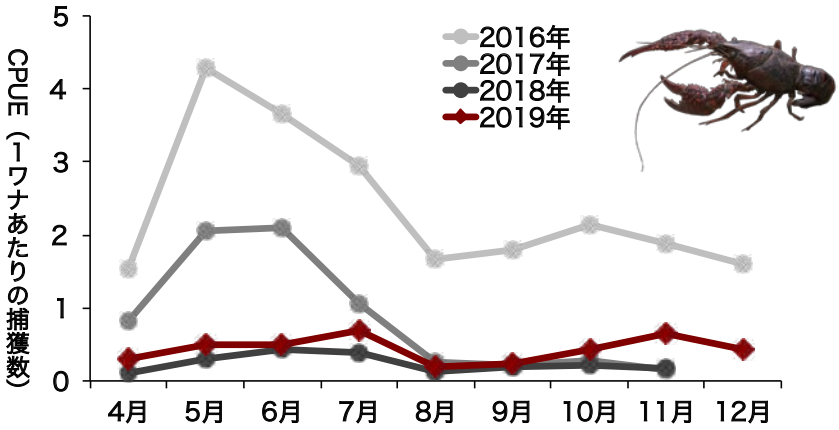
2019年アメリカザリガニ防除結果

外来種のアメリカザリガニは水草や水生昆虫に被害をおよぼすので、井の頭かいぼり隊と東京都が防除活動を行っています。2019年は池全体に約150基のワナを仕掛け、4月から11月に捕獲作業を行いました。今期は従来のカゴワナに加えて「連続捕獲装置」を導入。容器に格納された自動給餌器から誘引餌が出てくる仕組みの、近年注目されているワナです。

2019年のアメリカザリガニ捕獲数は、3073匹でした。これは前年並みで、カゴワナのワナ1基あたりの捕獲数（CPUE）も同様でした。連続捕獲装置では、従来のカゴワナのCPUEと同程度であり、時期や場所によってはカゴワナより多く捕れていました。装置を使いやすく改良しながら捕獲効率を高めていきたいところです。

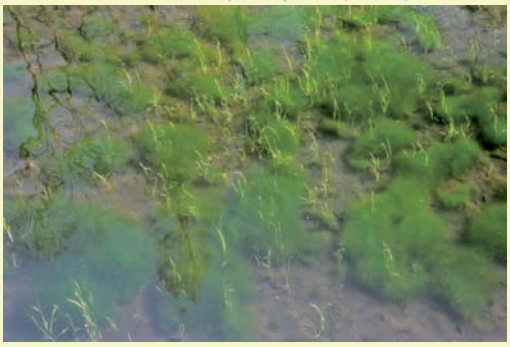
2020年も4月から防除活動が始まります。アメリカザリガニを低密度に抑えて、水草や水生生物が見られる池を保っていきたいと思います。

連続捕獲装置の回収作業



アメリカザリガニの１ワナあたりの捕獲数（カゴワナ）

今号のイチオシ！自然情報



池底くっきり、バツグンの透明度！

２月末から池の透明度が上がり、池底がくっきりと見えるようになりました。弁天池ではミクリの仲間の群生を見ることができます。

全員で記念撮影！

井の頭かいぼり隊 いけいけ！かいぼり隊

～池男（イケメン）＆池女（イケガール）、小さな隊員と共に泥水対策！の巻～

かいぼり隊と一緒に作業を行うイベント「ちょこっとかいぼり隊」を2月11日に開催した。テーマは池へ流れ込む泥水対策だ。泥水は池水を濁らせて水草を枯らしてしまう。池底に堆積する多量の落ち葉は底質を悪化させる。こうした状態を防ぐために、泥や落ち葉を止める「しがら柵づくり」と、雨水を浸み込ませる「浸透地の泥上げ」を行った。

作業にはかいぼり隊・東京都のほか、親子連れを中心に24名が集まった。参加者はとにかく熱心で、「浸透地の泥上げ」では、我も我も！と土を掘ったり運んだり、はたまた柵に枝を編み込んだりする手が止まらなかった。

参加者からは「泥水の影響や、園内にある枝積みの意味がわかった」「また作業をしたい！」という声をいただいた。イベントを通して、井の頭池を一緒に見守る仲間が増えていくことを願っている。

浸透地の泥上げ

しがら柵づくり